

# 倉橋先生と人形

山田 徳兵衛

忘年の友と申上げてはまことに失礼だが、倉橋先生と私はだいぶん年が違いながら、妙に気が合つて、御懇意願つてからすでに四十年になる。その間、特に親しくしていただいて何かとお世話になつた。

私が、はじめて「羽子板」という本を出した時も、長い序文を書いて下さつた。つまらぬ放送などすると、かならず聴いて下さつて、いつも（すこしひや、かしも交せて）褒め言葉のハガキなどよこされる。手元に残っているのは一昨年かのお節句に、テレビへ私と家内のまづい顔が出た時のものだが、前文ヨロシクアツテ……終りに、

お雛さまは素顔におわすテレビかな

ファンより

とひやかしておられる。

昨年あたりは、御病床にあつても、わざわざ批評のお電話をいただいたりした。私の放送は、人形のことか、東京の下町のことに限られているが、話が下町のこととなると、それからそれと興がのつて電話が長くなり、御不快中なのでこちらがハラハラしてしまうくらいであつた。

先生は、以前からなかなか人形好きであられて、その点もいろいろお教えを受けた。

戦前、私の店で、少女一對の新型の人形を売出したことがあつた。それによい命名を願おうと思つて、先生へ電話をおかけしたことがある。先生は「ウーン」と、一息つかれたが、すぐに「それは仲よし人形がいい。僕の家が中野で、君の店が吉徳だから……」と云われた。この命名式わずかに一分間。こんなところに、先生のウイットに富まれる（というより輪快な）江戸っ子の茶目的な）一面があられた。

この点、先生の御講演や、卓上演説のいつも面白いのと通じるものがあるであらう。

先生が、たしか皇太子さまのことで、皇后さまからお人形を

いたゞかれたことがある。非常に喜んで私にお話なさったのでどんなお人形かとお伺いしたら、袴かみしもを着けた福助と、うちかけを着たお多福の一对だとのことであつたので、それなら数年前私共の店で服装に苦心して謹製してお納めしたお人形です、と云つたら「それはうれし」と、先生は一しおのお喜び方であつた。そののち、私は、先生のお宅へ伺つて、「二度と会えまい」と思つていた、福助お多福御夫妻に面会出来て、これも実にうれしかった。

◇  
先生は、実は日本人形のためにかくれた功績者でもあられる。

それは、一今日、日展の第四部に人形が毎回出陳されているが、この実現運動をした主力の一つ、童宝美術院という団体に先生は同人であられた。昭和十一年、時の文展にはじめて人形が進出したのだが、人形が芸術品として確認され、人形師が芸術家の仲間入りをしたのも、この時からである。

このことは、あまり御存じの向きがすくないのではあるまいか。

以上、思い出すまゝを拙文で述べたが――、私は、先生の御逝去の報を聴いた時、不思議とすゞ浮んだことがある。それは先生は、下町でお育ちになつたのだが、両国の川開きというものをもまだゆつくり見る機会がなかつた……と、いつか話されたので、ちょうど、私の家が両国に近いので、そのうち一度御覧において願ひましよう、と、お約束したが、間もなく御病臥されて、その機を失つてしまつたことであつた。

ことしも、川開きが近づいた。

先生が、あの童顔で花火を見上げるお顔が見たかつた。

ことしは、せめて奥様を御招待しよう。

## 倉橋先生の

## 御死去を惜しむ

高崎能樹

倉橋先生は学者ではなかつた……と云う人もある。――世界